

愛知県花き振興計画 2030

～花の王国あいちのパワーアップ～



花の王国
あいち

2026年3月

目 次

第1	はじめに	1
1	計画の主旨	1
2	期間	1
第2	花きを巡る状況	2
1	生産	2
2	技術	4
3	流通	5
4	輸出	5
5	輸入	6
6	消費	6
第3	花き産業の振興のための施策に関する事項	8
1	生産者の経営の安定	8
(1)	生産基盤の整備	8
(2)	経営体や生産者組織の育成強化	8
(3)	エネルギー市場や需要の不安定性に備えたリスク管理	9
2	気候変動への対応と環境負荷軽減の推進	10
(1)	気候変動に対応した品種の開発と普及推進	10
(2)	気候変動及び環境に配慮した生産技術の開発と導入推進	10
(3)	自然災害に備えたリスク管理	10
3	あいちの花の競争力強化	11
(1)	高収益、省力生産を可能にする生産技術の開発と導入推進	11
(2)	魅力ある新品種の開発と普及推進	11
(3)	種苗供給体制の強化	12
(4)	流通体制の強化	12
4	輸出の促進	13
第4	花きの文化の振興のための施策に関する事項	15
1	公共施設及びまちづくり等における花きの活用	15
2	花きを活用した教育及び地域における花きを活用した取組の推進	16
3	日常生活における花きの活用促進	16
第5	花きの需要拡大のための施策に関する事項	18
1	花きのブランディングの推進	18
2	需要の変化への対応と消費者の理解醸成	18
第6	目 標	20

第7 重要品目（輪ギク）の品目別振興方針	21
1 輪ギクを巡る状況	21
2 輪ギクの振興方針と主な取組内容	21
＜参考資料1＞ 主要品目別の統計データ	23
＜参考資料2＞ 愛知県花き振興計画策定検討会議設置要領	30

第1 はじめに

1 計画の主旨

「愛知県花き振興計画2030」（以下「振興計画」という。）は、花き産業と花きの文化の振興を目的とした「花きの振興に関する法律」（平成26年法律第102号。以下「花き振興法」という。）第4条に基づき、愛知県における花き産業及び花きの文化の振興に関する計画として愛知県が定めるものです。

また、「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」（平成16年県条例第3号）第7条に基づく「食と緑の基本計画2030」の花きに係わる個別計画とします。

振興計画は、1962年以降連続して花き産出額日本一を誇る「花の王国あいち」を維持・発展させていくために、県、生産者、農業団体や流通、小売、消費団体、県民が連携して取り組む、花きに関する施策の基本的な方針として策定したものです。

なお、振興計画における「花き」とは、花き振興法で定める花き（観賞の用に供される植物であり、具体的には、切り花類、鉢もの類、花壇用苗もの類、球根類、花木類、芝類、地被植物類）のうち、花木類、芝類、地被植物類（以下「花木等」という。）を除くものとし、花木等については、「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」の趣旨を踏まえ、県が取り組む緑化を推進するための基本的かつ総合的な施策である「あいちのみどり」（2026年3月策定）に委ねるものとします。

ただし、第4、第5の文化振興及び需要拡大については、花木等を含めた花きの一体的な取組が求められるため、花木等を含めた施策に関する事項を取りまとめました。

その他、農業水産局各課が策定する諸計画と連携しながら施策を進めていきます。

2 期間

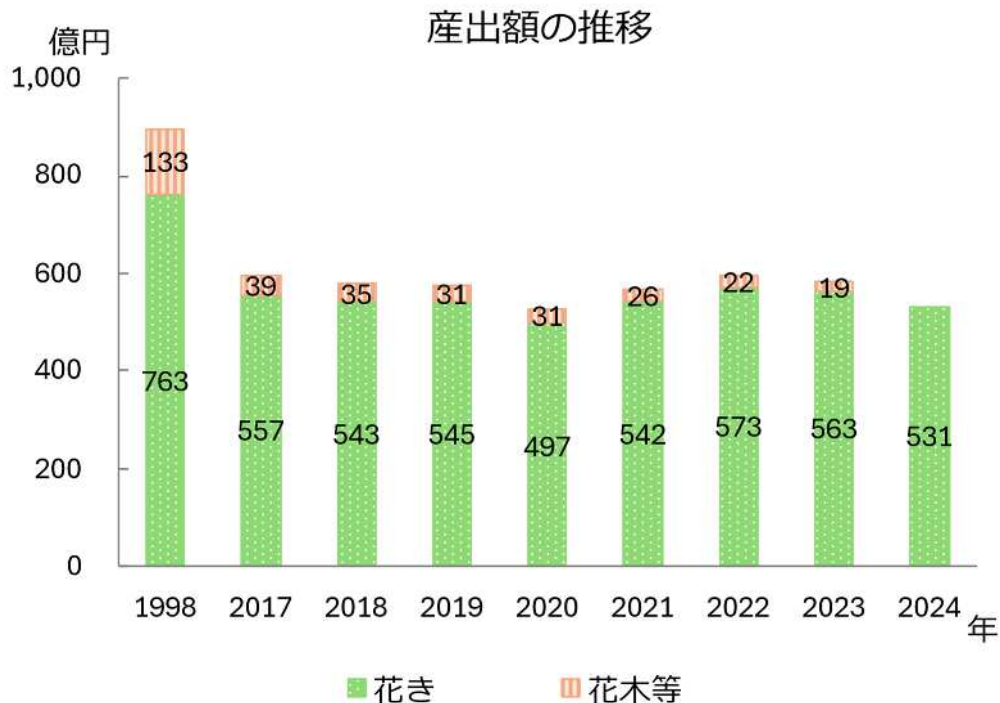
振興計画の実施期間を2026年度（令和8年度）から5年間とし、2030年度（令和12年度）を目標年度とします。

第2 花きを巡る状況

1 生産

本県の花き産出額は、1998年に763億円を記録して以降、減少傾向が続き、2017年以降は概ね550億円前後で推移しました。2020年には、新型コロナウイルス感染症の影響で産出額は大きく落ち込みましたが、その後回復し、2022年には573億円となりました。

しかし、高温による生産の不安定化や消費の減退、燃油や生産資材等の高騰など、花き産業を取り巻く環境には多くの課題が山積しており、2023年以降は産出額が再び減少し、2024年には531億円となっています。



出典：農林水産省 生産農業所得統計（花き）、花木等生産状況調査（花木等）

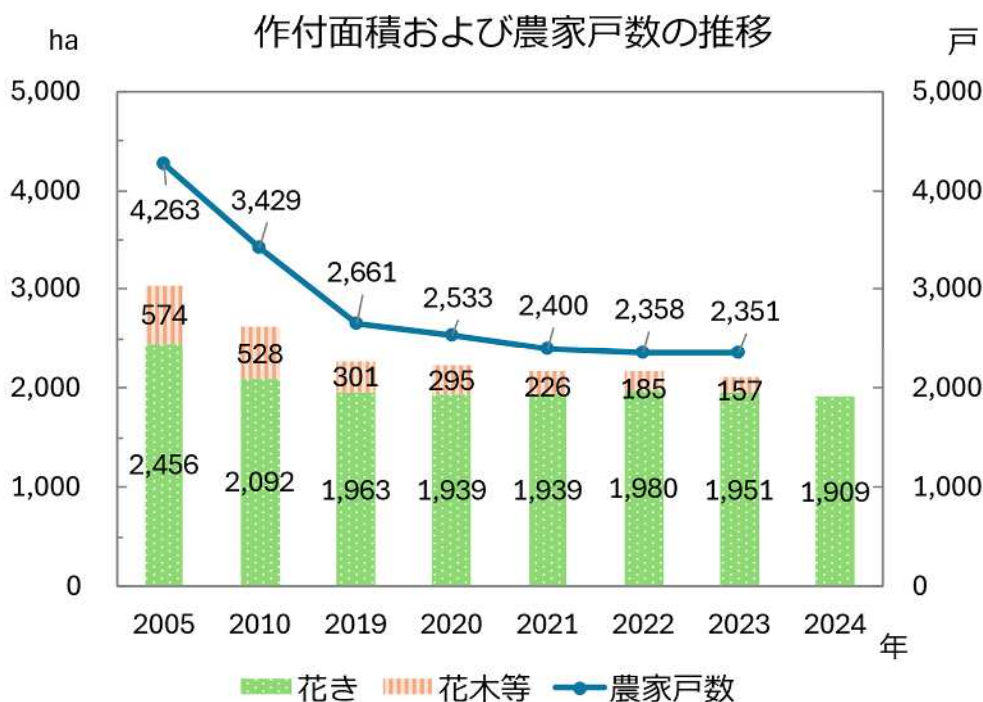
花きの産出額は、1962年から連続日本一を誇っており、2024年の531億円は全国シェアの15.5%を占め、第2位の千葉県や第3位の福岡県の産出額の2倍以上となっています。また、キク、バラ、洋らん、観葉植物などの品目は全国一となっています。

<都道府県別花き産出額順位（2024年）>

順位	1位	2位	3位	4位	5位
都道府県	愛知県	千葉県	福岡県	静岡県	長野県
産出額	531億円	200億円	172億円	166億円	157億円
全国シェア	15.5%	5.8%	5.0%	4.8%	4.6%

出典：農林水産省 生産農業所得統計

2024年の花きの作付面積は1,909haであり、ピークである2005年以降、横ばいから減少傾向が続いています。



出典：農林水産省 作物統計調査（花き）、花木等生産状況調査（花木等） 愛知県 花き生産実績（農家戸数）

44歳以下の花きの生産者は、県内の全作物の中で18.6%（愛知県・青年農業者等の実態調査結果：2025年5月1日現在）を占めます。2023年の花き生産者数は2,351戸となっており、高齢化や経営環境の悪化などから生産者数は年々減少しています（愛知県・花き生産実績）。

近年は作付面積の減少に加え、夏季の高温の影響により生育不良、開花遅延、品質劣化等が発生することで出荷量が減少しており、この傾向は今後も続くことが想定されます。

2023年の品目別の産出額によると、28品目が1億円以上であるなど、切り花、鉢ものとも多種多様な品目が生産されていることが本県の特徴です。

また、本県産の花きは、施設による安定的・計画的な栽培により品質やロットを確保するとともに、周年出荷を行うことにより市場から高い評価を得ており、予約相対取引の割合も高く、価格面では、市場平均より高い単価で取引されています。

<産出額1億円以上の品目>

切り花11品目	キク・カーネーション・バラ・宿根カスミソウ・ガーベラ・トルコギキョウ・スイートピー・デルフィニウム・アルストロメリア・グロリオサ・ケイトウ
鉢もの6品目	シクラメン・ペゴニア類・ポインセチア・アジサイ・ポットカーネーション・ハイビスカス
観葉植物7品目	ポトス・ドラセナ類・アンズリウム・アナナス類・ヘデラ・ゴム類・サボテン
洋らん3品目	シンビジウム・デンドロビウム・コチョウラン
花壇苗1品目	パンジー

燃料・肥料・運賃等の花き生産コストは上昇を続けており、特に光熱動力費は農林水産省「農業物価統計」によれば、2024年物価指数が130（2020年＝100）と高騰しています。花きでは、このようなコスト増加を販売価格に転嫁できない状況が続いており、生産者の経営環境はかつてないほど厳しい状況です。

そのため、価格決定を合理的なコストに基づき透明化する等、花きについても食料分野と同様の枠組みや取組を導入すべきとの声が生産現場から高まっています。

2 技術

県農業総合試験場及び普及組織では、花きの生産性向上や品質向上を図るため、キク・バラ・カーネーション栽培におけるLED活用技術、コショウランのCO₂施用技術、UVB照射によるバラうどんこ病防除技術等の開発と導入を進めてきました。

また、産学官連携により、品質・生産性向上のための新技術及び新品種を開発を展開しています。県農業総合試験場で育成した品種のうち、輪ギク4品種、スプレーギク6品種、スプレーカーネーション5品種、クルクマ1品種、バラ1品種の合計17品種が種苗登録、または出願公表中となっています（2025年3月現在）。

特にスプレーギクでは、夏季高温期に安定した生産が可能な「スプレーアイチ夏2号（ピンク）」、「スプレーアイチ夏3号（白）」、「スプレーアイチ夏4号（黄）」という主要花色3色の開発と普及を通じて、産地のブランド力向上に寄与しています。

コ ラ ム

愛知県が育成した耐暑性品種「スプレーアイチ夏3号」

「スプレーアイチ夏3号（通称：あいむジャガー）」は、白色でシングル咲きの夏秋系スプレーギク品種です。耐暑性が強く、7～9月の高温期にも開花の遅れ、生育障害、病気の発生が少なく、品質の高い切り花を安定して出荷できます。また、純白の花弁と濃い緑色の中心部とのコントラストが鮮明で、開花が進んでも中心部の緑色が黄色に変化しにくいいためフレッシュな外観を長く保つ等の特徴を持っています。

生産者に高く評価され、県内で約850a、年間366万本（2024年農業総合試験場調べ）出荷されており、夏秋系白色スプレーギクの主力品種となっています。



3 流通

国内の花き卸売市場経由率は2022年時点で72.8%と青果物の50.5%に比べて高いものの、減少傾向にあります（農林水産省・卸売市場データ集）。近年では、インターネット取引を含むセリ前販売の増加、販売範囲の広域化、市場間競争の激化が進んでいます。

さらに、2024年以降は物流のひっ迫による運送会社の撤退や集荷範囲の縮小、輸送費の増加が懸念されており、物流の効率化が喫緊の課題となっています。

県内の主要市場である愛知名港花き地方卸売市場や愛知豊明花き地方卸売市場、主要生産地であるひまわり農業協同組合や愛知みなみ農業協同組合の集出荷貯蔵施設では、全館空調による低温管理を実施し、鮮度保持のための設備整備が進んでいます。しかし、生産地から小売店頭まで切れ目のないコールドチェーンの構築には至っていません。

小売段階では、花き専門店の他、ホームセンターや花きを取り扱う食品スーパー、農産物直売所なども重要な販売事業者となっています。加えて、近年では、インターネットや雑貨店・カフェなどの異業種店舗等、消費者の購入先が多様化しています。

4 輸出

日本の花きは多様な品目が生産されており、それぞれに手間をかけた高度な生産技術により、同一品目でも外国産と比べて品質面で高い評価を受けています。一方で、生産コストや輸送コストが高いため、輸出における価格競争では不利な状況にあります。

花木等を含む花きの輸出額の大部分は植木・盆栽・鉢ものが占めています。切り花については輸出全体に占める割合は少ないものの、輸出先でのプロモーション活動等により、2020年と比較して2024年は約2倍の16.4億円に増加しており、今後の輸出拡大が期待されます（貿易統計・税関ホームページ）。

こうした中、愛知豊明花き地方卸売市場は、国産花きの輸出拠点市場として中部国際空港からの輸出拡大に取り組んでいます。本県からは多種多様な鉢もの類が香港向け（一部シンガポール）に輸出されるほか、グロリオサやスイートピーなどの切り花も卸売市場を通じて輸出されています。

県内の主要産地である愛知みなみ農業協同組合は、農林水産省が選定する「フラッグシップ輸出産地」に切り花として初めて認定され、輸出強化の取組を開始するなど、輸出への機運は高まっています。しかし、検疫や輸送、生産面の課題により、輸出量は伸び悩んでいます。

2025年からは県、田原市等と連携して、農林水産省の補助事業「GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト」を活用し、生産面での課題解決を通じて輸出量の拡大を図っています。

<輸出額>

	金額（千円）	種類	
		切り花類	鉢ものの類
2020年	14,990	4,734	10,256
2021年	26,055	10,227	15,828
2022年	29,964	13,546	16,418
2023年	37,003	21,352	15,651
2024年	33,498	16,408	17,090

出典：愛知県調べ

5 輸入

花きの輸入額は、2014年以降500～600億円程度で推移しており、2023年は618億円で前年比3%増加しました。割合としては10年で1.8ポイント増加しています。輸入は、切り花類が大半を占め、お彼岸や母の日などに需要が一時的に集中するキク、カーネーションの輸入額が多くなっています（キク182億円、カーネーション143億円（2024年））。

本県主力品目では、キクがベトナム、マレーシアなどから3.2億本、カーネーションがコロンビア、中国などから3.8億本、バラがケニア、エチオピアなどから4千万本輸入されています。

主要な輸入相手国は、年間を通じて花き栽培に適した気候のもと周年安定生産が可能です。さらに、国外の資本・技術を導入して設備費や光熱費等のコストをかけずに安価な花きを生産し、長時間輸送を前提とした鮮度管理の徹底と、市場や小売が要望する安定供給体制を整えていることから、輸入量・額とも増加の傾向にあります。

6 消費

日本の切り花支出金額は長期的に減少傾向にあり、少子化や価値観の変化等によるウェディング、葬儀需要の減少に加え、物価上昇が同時進行し、消費は低迷しています。

一世帯あたりの年間支出額も減少しています。また、若年層の支出額は高齢者層と比較して低くなっています。

県内の消費状況を見ると、全国の県庁所在市の中で名古屋市の1世帯あたり年間切り花支出額は7,120円（2024年）で第28位にとどまり、全国的には中位です。

<東海4県の県庁所在市における切り花の1世帯あたり年間支出額及び全国順位の推移>

区分	2022年	2023年	2024年
名古屋市	7,036円 (29位)	7,545円 (24位)	7,120円 (28位)
岐阜市	7,409円 (26位)	9,690円 (8位)	7,414円 (25位)
津市	8,944円 (11位)	8,254円 (20位)	9,595円 (6位)
静岡市	11,355円 (1位)	6,544円 (34位)	5,769円 (39位)

出典：総務省統計局 家計調査年報（総世帯）

花きは冠婚葬祭や贈答、装飾など、暮らしのさまざまな場面で利用されています。しかし、業務需要については、新型コロナウイルス感染症拡大後に葬儀の簡略化が急速に進み、大きく減少しました。

こうした中、暮らしに花を取り入れる「花いっぱい県民運動」を展開するとともに、花の購買が低調な1～2月に新しい花贈り文化を定着させるため、生産者・流通・小売店などが連携して「フラワーバレンタイン」に取り組んでいます。このほか、「敬老の日」「いい夫婦の日」「愛妻の日」「ローズの日」など、身近な人に花を贈る提案も行われています。



花いっぱい県民運動による花壇整備



フラワーバレンタインプロモーション

第3 花き産業の振興のための施策に関する事項

生産者の高齢化に伴う担い手不足や気候変動による生産の不安定化、燃料価格や資材費の上昇、物流問題、安価な輸入切り花の増加といった諸問題に対応する観点から、本県花き産業の生産力や国際競争力の強化が喫緊の課題となっています。そのため、生産基盤の整備や気候変動対応、輸出の強化等を推進し、花き産業の振興を図ります。

1 生産者の経営の安定

花き産業の振興を図るためには、経営規模の維持・拡大のための生産基盤の整備、意欲ある担い手の確保・育成、及びエネルギー市場や需要の不安定性に備えたリスク管理等の支援に取り組む必要があります。

(1) 生産基盤の整備

生産性の向上を図るため、各種補助制度・制度資金を活用した施設の改修及び更新の支援や、スマート農業技術の導入による省力化を進め、経営規模の拡大を推進します。

<主な取組>

- ・省エネ設備やスマート農業技術の導入支援
- ・施設の改修及び更新、機能強化による生産基盤の維持
- ・耐候性ハウスや機械設備、環境制御技術等の導入支援
- ・各種補助事業や制度資金の活用による生産基盤の強化
- ・後継者や新規就農者に向けた既存施設の再整備支援
- ・集出荷場等共同利用施設の集約化・再整備の推進



整備された集出荷施設

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業振興課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、JA

(2) 経営体や生産者組織の育成強化

花き産地の維持・発展のため、意欲ある担い手の確保・育成と生産者組織の育成強化を図ります。

<主な取組>

- ・生産技術、経営指導による基幹経営体の育成と事業継承支援
- ・意欲ある担い手の営農継続支援
- ・新規就農者の受け入れに向けた産地での取組支援
- ・農業大学校の農起業支援ステーション及び農起業支援センターにおける就農相談、支援

- ・組織における研究、マーケティング活動等の活動強化支援
- ・生産者組織の統合、再編支援等

< 県関係課、関係団体 >

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業大学校、農業総合試験場、愛知県花き温室園芸組合連合会、JA

コラム

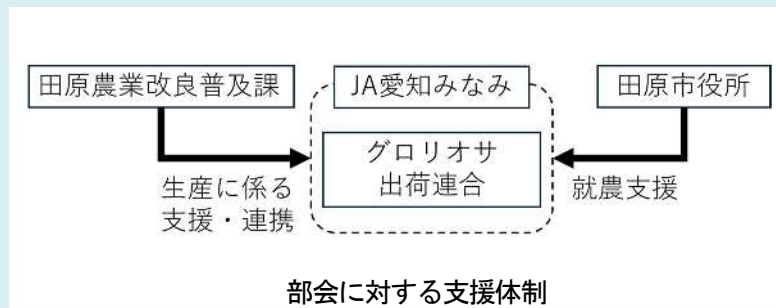
グロリオサ栽培の新たな担い手をサポートする体制づくり

JA 愛知みなみのグロリオサ出荷連合は、部会員 6 名で年間約 43 万本（2024 年）のグロリオサを生産しており、中小輪系の部会オリジナル品種が出荷先から高く評価され、国内外で需要が高まっています。また、輸出拡大に取り組んでおり、農林水産省から「フラッグシップ輸出産地」として認定を受けています。このため、新規栽培者の受け入れ体制を整備し、部会全体で需要に対応できる生産力の強化をめざしています。

JA 愛知みなみ及び愛知県田原農業改良普及課では、田原市役所と連携して就農支援を進めており、新規就農者への指導体制の整備に向けて、推奨品種の選定や栽培マニュアルの作成を支援しています。



グロリオサ



(3) エネルギー市場や需要の不安定性に備えたリスク管理

燃油等の高騰による負担を軽減するための支援及び、需要の落ち込みに伴う生産量の減少や価格の下落に備えたセーフティーネットへの加入を促進します。

< 主な取組 >

- ・燃料費等の価格差に対する支援
- ・収入保険等のセーフティーネットへの加入促進

< 県関係課、関係団体 >

園芸農産課、農業振興課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県農業共済組合、JA

2 気候変動への対応と環境負荷軽減の推進

地球温暖化等の気候変動による花きの収量、品質の低下が問題となっています。そのため、高温に強い品種の開発や施設内の栽培環境を改善する技術の確立、病害虫防除体系の確立に取り組む必要があります。

また、自然災害に対する備え、復旧に向けた各種補助制度や制度資金の活用を支援する必要があります。

(1) 気候変動に対応した品種の開発と普及推進

高・低温による開花遅延及び品質低下対策、高温時の立ち枯れ症等の病害対策として、耐暑性や低温開花性、病害抵抗性を有する新品種の開発と普及を推進します。

<主な取組>

- ・耐暑性、低温開花性を有する輪ギク、スプレーギクの新品種開発と普及推進
- ・病害抵抗性を有するカーネーションの新品種開発と普及推進

<県関係課、関係団体>

農業経営課、各農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、J A

(2) 気候変動及び環境に配慮した生産技術の開発と導入推進

高温による開花遅延や品質低下等の対策として、安定生産技術や設備の導入を推進します。また、環境負荷の軽減に向けて、農薬に頼らない病害虫防除技術の導入を推進します。

<主な取組>

- ・高温障害を回避、軽減する技術や、病害虫防除技術の開発と導入推進
- ・光等を用いた農薬に頼らない病害虫防除技術の開発と導入推進
- ・省エネ設備やスマート農業技術の導入支援（再掲）
- ・耐候性ハウスや機械設備、環境制御技術等の導入支援（再掲）



うどんこ病防除用 UVB ライト

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、農業総合試験場、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、J A、愛知県花きイノベーション地域協議会構成員

(3) 自然災害に備えたリスク管理

自然災害による販売額の減少に備え、災害対策の徹底やセーフティネットへの加入を促進します。

<主な取組>

- ・自然災害時における事業継続計画（BCP）の策定及びBCPに基づく対策の推進
- ・収入保険、園芸施設共済等のセーフティネットへの加入促進（再掲）

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業振興課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、J A、愛知県農業共済組合

3 あいちの花の競争力強化

競争力のある花き産業を振興するためには、産学官連携を図りながら、品質や生産性を向上する技術の開発、マーケットインの視点に立ったオリジナル品種の開発による差別化、県産花きの認知度向上と流通体制の強化が必要です。

(1) 高収益、省力生産を可能にする生産技術の開発と導入推進

品質や生産性を向上するため、生産技術等の開発・普及に取り組みます。

<主な取組>

- ・高品質、高収量、低コスト、省力を可能にする生産技術の開発及び導入推進
- ・産学官連携や現場解決型研究による低コストな環境制御等、スマート農業技術の開発と導入推進
- ・省エネ設備やスマート農業技術の導入支援（再掲）

<県関係課、関係団体>

農業経営課、農業総合試験場、各農林水産事務所農業改良普及課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、J A、愛知県花きイノベーション地域協議会構成員

(2) 魅力ある新品種の開発と普及推進

産学官連携等により、マーケットインの視点に立った付加価値の高い新品種の開発と普及を推進します。

<主な取組>

- ・高品質、高生産性、新規需要を喚起するオリジナル品種等の開発及び普及推進（輪ギク、スプレーギク、カーネーション、アジサイ）
- ・関係者が一体となった県オリジナル品種の認知度向上
- ・知的財産の適切な保護及び活用

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、J A

アジサイは「母の日」に贈られる鉢花として人気が高い商品です。愛知県内では田原市を中心に72戸の農家が栽培し、県内の産出額は11億円を超え（2023年花き生産実績）、全国トップシェアを誇ります。

愛知県では、魅力的なアジサイ新品種を開発するため、2022年より愛知県花き温室園芸組合連合会アジサイ研究会と県農業総合試験場が共同研究を開始しました。年2回品種検討会を開催し、研究員と生産者で有望な品種を選抜しています。選抜した品種は現地で栽培試験を実施し、オリジナル性が高いことに加え、生産者が栽培しやすい優れた品種の開発を目指しています。



品種検討会（左：試験圃場での系統選抜、右：室内での系統選抜）

（3）種苗供給体制の強化

県が開発した新品種等の種苗を円滑に生産者に供給するため、関係機関と連携して供給体制の強化を図ります。

<主な取組>

- ・ 県育成品種の種苗供給体制の強化支援

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県花き温室園芸組合連合会、JA、種苗会社

（4）流通体制の強化

出荷規格の見直しやICTの活用による物流業務の効率化を進め、市場流通コストの低減等を推進するとともに、品質保持・向上のためのコールドチェーンシステムの構築を進めます。

<主な取組>

- ・ストックポイントの構築等による流通経路の合理化
- ・積載効率の向上に資する出荷規格等の見直し
- ・出荷規格、パレット、台車、段ボール箱等の規格統一等による輸送効率化の支援
- ・流通情報のデジタル化による取引業務の効率化と相対販売の拡大支援
- ・産地における低温設備の整備等によるコールドチェーンの構築支援
- ・鮮度保持設備を活用した長期保存による出荷の平準化
- ・鮮度保持の重要性についての生産、流通、小売関係者に対する普及啓発
- ・費用を考慮した合理的な価格形成の支援

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、食育消費流通課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、J A、愛知県花きイノベーション地域協議会構成員



輪ギク長期保存の実証

4 輸出の促進

本県産花きは国際的にも品質が高く評価されており、ひまわり農業協同組合と愛知みなみ農業協同組合では「農林水産物及び食品の輸出に関する法律」（2020年4月施行）に基づき策定した花き輸出事業計画が認定され、輸出に向けた取組を進めています。

また、愛知みなみ農業協同組合は農林水産省の「フラッグシップ輸出産地」に認定され、県や田原市と連携して国の補助事業を活用した取組を実施するなど、輸出強化に向けた産地の機運は高まっています。

しかし、検疫や輸送、生産面の課題により、輸出額は伸び悩んでいます。そのため、輸出対応産地の育成と海外市場の獲得に向けた取組を支援し、さらなる輸出拡大を図ります。

<主な取組>

- ・輸出に適した品目の生産や防除体制の整備など輸出対応産地の強化支援
- ・防疫体制や輸送方法に関する先進事例の調査、検討
- ・関係機関と連携した航空、船舶輸送に適した輸送方法及び鮮度保持技術の開発改善推進

- ・商談会等での情報交換とプロモーション活動の推進
- ・市場、消費実態に関する情報の収集、提供
- ・国際園芸博覧会など国際的なイベントへの出展、コンテストへの参加支援
- ・輸出相手国の検疫条件緩和に向けた全国的な取組への参画

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、食育消費流通課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、J A、愛知県花きイノベーション地域協議会構成員



輪ギクをアメリカへ初出荷

キクの産地として知られる愛知県では、長年にわたり品質向上と安定出荷に努めてきました。しかし、コロナ禍以降、家族葬の増加によりキクの葬儀向け需要が減少するなど、需要構造が大きく変化し、新たな販路の確保が課題となっています。

こうした中、JA 愛知みなみが 2026 年 1 月に全国で初めて米国向けのキクの出荷を開始し、国内需要の減少を見据えた新たな取組として注目されています。

米国ではキクを友人に贈るなど明るいイメージがあるとされ、日本とは異なる用途での需要が期待されています。輸出に向けた検疫対策や輸送試験も順調に進んでおり、今後は市場調査を通じてニーズを把握し、それに対応した販売方法の検討を進めていくこととしています。

海外市場での評価が高まれば、県産キクのブランド価値向上にもつながることから、生産・販売の両面で新たな展開が見込まれます。



輪ギク栽培ほ場



キク専用選花梱包施設

第4 花きの文化の振興のための施策に関する事項

日常生活に花きに関する伝統や文化が根付くことによる、心豊かな暮らしの実現を目指します。そのため、公共施設における県産花きの活用や、花きを取り入れた教育活動等、暮らしに花を取り入れる「花いっぱい県民運動」を各種施策と連携しながら継続して推進していきます。

1 公共施設及びまちづくり等における花きの活用

多くの人を訪れる公共施設等で花きを積極的に活用し、花や緑がもたらす癒しの効果を体感できる機会の拡充に努めます。また、本県を訪れる観光客等に対する「おもてなし」として花きの活用を推進します。

<主な取組>

- ・「花の王国あいち」シンボルマークの活用
- ・今月のあいちの花の設定と活用推進
- ・まちづくりへの花の活用推進
- ・県庁における「おもてなし花壇」の設置
- ・県産花きを用いた活動に取り組む「花の王国あいちサポート企業」の認定、支援
- ・アジア・アジパラ競技大会等県内大規模イベントでの花によるおもてなしとPR

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、森林保全課、公園緑地課、各農林水産事務所農政課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、花の王国あいち県民運動実行委員会構成員



花の王国あいち シンボルマークと花いっぱい県民運動

愛知県が1962年から花の産出額が日本一の「花の王国」であることを広く知っていただくために2015年に制作したシンボルマークです。ひげは葉、王冠は花をイメージした王様の顔となっています。

「花って、いいよね。」を合言葉に、「花いっぱい県民運動」に活用することで、「花の王国あいち」に対する県民の認知度は徐々に高まり、34%となっています(2025年度県政世論調査)。



シンボルマーク



「今月のあいちの花」の展示

2 花きを活用した教育及び地域における花きを活用した取組の推進

「花育」は、花や緑に親しみ、育てる機会を通じて、子どもたちにやさしさや美しさを感じる心を育む活動であり、幼少期の情操面の向上に寄与します。

また、地域活動においても、花きを介した世代間交流により、地域のつながりを深めることが期待されています。

花育は将来的な花き需要の拡大にも有効であると考えられるため、強化していく必要があります。

<主な取組>

- ・花育ティーチャーの登録、派遣による花育活動の推進
- ・20代から50代に向けた花育教室の開催
- ・フラワー・ブラボー・コンクール活動や全国花のまちづくりコンクールの推進
- ・花壇づくり等の花きを介した世代交流を伴う地域活動の支援

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、森林保全課、各農林水産事務所農政課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、J A、その他花の王国あいち県民運動実行委員会構成員

3 日常生活における花きの活用促進

生け花や盆栽など、花きに関する伝統と文化を地域の生活に深く根付かせることで、心豊かな暮らしの実現を目指します。

新たな花贈り文化や、花のある生活の定着を継続して推進していきます。

<主な取組>

- ・フラワーバレンタイン、ローズの日等の新たな花贈り文化の定着推進
- ・地域の伝統的な花や生け花等の花文化の普及
- ・華道など花に関する高校部活動への支援
- ・家庭や職場に日常的に花のある生活の定着推進
- ・花きの知識の普及推進

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、森林保全課、各農林水産事務所農政課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知名港花き卸売事業協同組合、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、J A、その他花の王国あいち県民運動実行委員会構成員

コラム

若年層の年間切り花購入額の増加と高校華道部への取組

総務省統計局「家計調査」によると、29歳以下世帯の切り花購入額は、年間2,950円と全世帯平均7,684円より少ないものの、2019年から2024年の間に約4倍へと増加しています。こうした傾向を踏まえ、花の王国あいち県民運動実行委員会では若年層をターゲットとした取組を強化しています。

その1つとして、県内高校華道部等の皆さんに、「花の王国あいち」の魅力を発信するため、愛知県産の花を使用した活動の一部花材費を助成する取組を実施しました。

2025年度は旭野高等学校、瀬戸高等学校をはじめ計10校が、学校祭に向けたいけばな制作等で本事業を活用しました。各校の活動ではキク、バラ、グロリオサを始めとする多様な愛知県産花きが使用され、愛知県が花の生産日本一であることを知る契機となった他、県産花材の種類の豊富さや品質の高さを実感してもらうことができました。



高校生による華道部の活動

第5 花きの需要拡大のための施策に関する事項

少子高齢化や、物価高の影響により、花きの消費は縮小傾向にあります。花き産業の振興には、花きを持つ多面的な価値を高め（花きのブランディング）、時代の変化に合わせた新たな需要を創出するための取組が不可欠です。

1 花きのブランディングの推進

種類が豊富で品質の高い本県産花きをPRし、誰もが参加しやすいイベントの開催や国際園芸博覧会、各種スポーツイベント会場での花きの活用により、花きの魅力発信に取り組みます。

<主な取組>

- ・花を見て、触れて、購入できる県民参加型の「花と緑のイベント」の継続開催
- ・アジア・アジアパラ競技大会など県内大型イベントでの花によるおもてなしとPR（再掲）
- ・国際園芸博覧会など国際的なイベントへの出展、コンテストへの参加支援（再掲）
- ・フラワーバレンタイン、ローズの日等の新たな花贈り文化の定着推進（再掲）
- ・花の大消費地である首都圏での県産花きの利用促進

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、森林保全課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、JA、愛知県花きイノベーション地域協議会

2 需要の変化への対応と消費者の理解醸成

新型コロナウイルス感染症拡大により変化した新たな生活様式に、積極的に花きを取り入れられるよう花きの需要を拡大する取組を支援します。また、消費者が生産現場を理解できるよう、生産者と交流する機会作りを推進します。

<主な取組>

- ・ホームユース市場に対応した生産・流通・小売間の連携強化
- ・業務向け需要の新規開拓支援（オフィス装花、イベント装飾、ホテル・飲食店との提携強化等）
- ・インターネット販売やサブスクリプション等による新たな販売体制の構築支援
- ・SNSを活用した県産花きPRの取組支援
- ・花を見て、触れて、購入できる県民参加型の「花と緑のイベント」の継続開催（再掲）
- ・花きの知識の普及推進（再掲）

<県関係課、関係団体>

園芸農産課、農業経営課、各農林水産事務所農政課・農業改良普及課、農業総合試験場、森林保全課、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県緑化木生産者団体協議会、愛知豊明花き流通協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合 J A、愛知県花きイノベーション地域協議会

コラム あいち花マルシェ

愛知県では、日本一の花の生産を誇る「花の王国あいち」として、あいちの花の消費拡大を図るため、花を「見て・触れて・購入できる」県民参加型のイベント「あいち花マルシェ」を2020年度から開催しています。

県内の生産者が栽培した「あいちの花」の販売をはじめ、花のディスプレイやフォトスポットの設置、花の体験教室、あいちフラワーコンテストの実施など、盛りだくさんの内容となっており、多くの来場者に「あいちの花」の魅力を存分に感じていただいています。



花マルシェ出店風景



生産者による花のディスプレイ

第6 目標

1962年以降、切り花など花きの生産で日本一を誇る「花の王国あいち」にふさわしい花き産業の維持・発展と、花のある暮らしの実現を目指します。

そのため、県、生産者、農業団体、流通・小売、消費者団体、そして県民が連携し、「花の王国あいち」をパワーアップさせるための各種取組を進めていきます。

こうした取組が効果を発揮することで、2030年度（令和12年度）の目標を以下の2項目とします。

○ 花き産出額 580億円

(参考)

花木等（花木類、芝類、地被植物類）：20億円

花木等を含む花きの合計産出額：600億円

本県の花き生産は、1998年に産出額764億円を記録して以降、減少傾向が続いています。2017年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ2020年を除き、概ね550億円前後で推移しました。しかし、高温による生産の不安定化や消費の減退など、花き産業を取り巻く環境には多くの課題があります。こうした状況の中、2022年以降は産出額が再び減少し、2024年には540億円を下回りました。

このため、生産から流通、加工、消費に至るまで幅広い施策を講じ、花きの産出額をコロナ禍前の水準に引き上げることを目指します。

○ 花き輸出金額 8千万円

本県では、これまで鉢ものを中心に県産花きの輸出を行ってきましたが、近年はグロリオサやスイートピーなど切り花の輸出も徐々に増加しています。しかし、検疫や輸送コストなどの課題により、輸出額は2024年で3.3千万円と依然として少ない状況です。

このため、輸出対応産地の育成や、国際園芸博覧会などの国際的イベントへの出展、商談会での情報交換やプロモーション活動を推進し、海外への販路拡大を図り、現状の2.4倍の輸出額を目指します。

第7 重要品目（輪ギク）の品目別振興方針

輪ギク産出額に関する全国の統計データはありませんが、愛知県花き生産実績によると、本県の輪ギク産出額は163億円（2023年）で、全国に占める愛知県のシェアは極めて高いことが推測されます。また、県の花き産出額に占める輪ギクの割合は40%（2023年・愛知県花き生産実績）と高く、本県にとって輪ギク産地の振興は最重要課題です。

このため、重要品目である輪ギクの振興方針を定め、輪ギク産地の維持・発展を図ります。

1 輪ギクを巡る状況

- (1) 生産資材の高騰、施設・設備の老朽化や夏季高温による生産性の低下などにより、生産者の所得は減少しています。
- (2) 生産者の高齢化や後継者不足により、生産者数と作付面積は年々減少しています。輪ギクは施設整備コストが高く新規就農が困難なため、産地の維持が危ぶまれています。
- (3) 物日以外の時期には供給過剰となり、販売価格の低下を招いています。また、業務需要については、新型コロナウイルス感染症拡大後に葬儀の簡略化が急速に進み、大きく減少しました。
- (4) 生産経費は上昇しているものの、販売価格は需要と供給のバランスで決定されるため、コスト上昇分が反映されない状況です。また、比較的安価な輸入品の増加による、販売価格の低下が懸念されています。

2 輪ギクの振興方針と主な取組内容

生産基盤の整備や夏季高温対策、担い手の確保を支援することにより、生産力を維持します。また、新たな需要の創出や費用を考慮した合理的な価格形成を推進し、輪ギク産地の振興を図ります。

- (1) 生産基盤と気候変動対応策の強化
 - ・機械設備の高度化、省エネ設備等の導入支援（苗移植機、環境制御装置等）
 - ・耐暑性、低温開花性、省力性を有するキクの開発
 - ・効率的な高温対策技術や装置の使用方法の確立と導入支援（ミスト、遮光剤等）
- (2) 意欲ある担い手の確保
 - ・生産技術、経営指導による基幹経営体の育成と事業継承支援
 - ・意欲ある担い手の営農継続支援
 - ・施設の改修及び更新、機能強化による生産基盤の維持
 - ・各種補助事業や制度資金の活用による生産基盤の強化
- (3) 需要と供給のバランス改善
 - ・計画的安定生産技術の開発と導入
 - ・品目の多角化支援
 - ・新規需要を喚起する品種の開発

- ・カラーリングマムの供給体制確立と販路拡大
- ・業務向け需要の新規開拓支援（オフィス装花、イベント装飾、ホテル・飲食店との提携強化等）
- ・鮮度保持設備を活用した長期保存による出荷の平準化
- ・輸出に向けた生産、防除体制の構築支援

(4) 費用を考慮した合理的な価格形成の支援

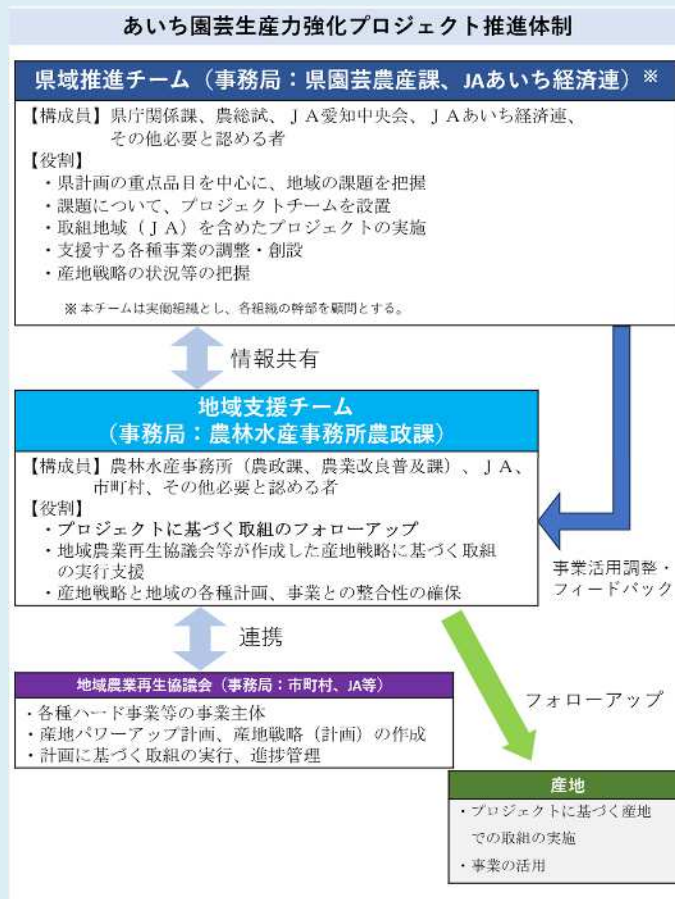
- ・短茎出荷等、出荷規格の見直し
- ・再生産が可能なコスト指標の算出と取引環境の整備
- ・実需者への理解醸成

コラム

あいち園芸生産力強化プロジェクト推進体制について

園芸品目（野菜、果樹、花き）については、本県の農業産出額の約6割（58.2%）を占めており（2024年度）、キャベツ、しそ、ふき、いちじく、キク類など全国の農業産出額に占める割合の高い品目も多く存在します。しかしながら、本県の農業産出額は、2007年までは全国第5位であったものの、以降徐々に順位が下がり、2018年以降は第8位となっています。

そこで、県及びJAグループ愛知を中核とした体制を整備し、本計画等に位置づける重点品目（花きでは輪ギク）を中心に、産地を取り巻く構造的な課題解決の取組を実施し、園芸品目の生産力強化と振興に注力していきます。



<参考資料1> 主要品目別の統計データ

1 キク

(1) 生産出荷に関する主要指標

出展：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2019	2020	2021	2022	2023	5か年平均	2023/2019
作付面積	愛知県	ha	1301	1281	1280	1280	1262	1280.8	97.0
	全国	ha	4490	4314	4258	4092	3979	4226.6	88.6
	シェア	%	29.0	29.7	30.1	31.3	31.7	30.4	109.3
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万本	473	441	447	438	419	443.6	88.6
	全国	百万本	1412	1300	1298	1220	1187	1283.4	84.1
	シェア	%	33.5	33.9	34.4	35.9	35.3	34.6	105.4
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	223	197	196	223	218	211.4	97.8
	全国	億円	597	537	539	585	593	570.2	99.3
	シェア	%	37.4	36.7	36.4	38.1	36.8	37.1	98.4
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—

(2) 主要産地（生産上位3市町村）

輪ギク

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
田原市	680	226	151
西尾市	16	5	4
稲沢市	13	5	2

スプレーぎく

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
田原市	149	59	36
豊川市	36	15	10
蒲郡市	2	0.7	0.4

小ぎく

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
豊田市	8	6	1
稲沢市	7	3	1
新城市	2	0.3	0.1

2 バラ

(1) 生産出荷に関する主要指標

出展：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2019	2020	2021	2022	2023	5か年平均	2023/2019
作付面積	愛知県	ha	47	47	46	45	44	45.8	93.6
	全国	ha	302	291	284	269	262	281.6	86.8
	シェア	%	15.6	16.2	16.2	16.7	16.8	16.3	107.7
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万本	39	32	32	36	34	34.6	87.2
	全国	百万本	221	201	194	189	184	197.8	83.3
	シェア	%	17.6	15.9	16.5	19.3	18.5	17.6	105.1
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	23	19	23	28	27	24.0	117.4
	全国	億円	156	137	153	170	163	155.8	104.5
	シェア	%	14.7	13.9	15.0	16.5	16.6	15.3	112.9
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—

(2) 主要産地（生産上位3市町村）

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
豊川市	16	12	13
田原市	11	12	10
西尾市	7	5	4

3 カーネーション

(1) 生産出荷に関する主要指標

出展：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2019	2020	2021	2022	2023	5か年平均	2023/2019
作付面積	愛知県	ha	47	46	45	40	38	43.2	80.9
	全国	ha	271	262	252	237	229	250.2	84.5
	シェア	%	17.3	17.6	17.9	16.9	16.6	17.3	96.0
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—
出荷量	愛知県	百万本	45	36	38	35	34	37.6	75.6
	全国	百万本	223	206	202	193	183	201.4	82.1
	シェア	%	20.2	17.5	18.8	18.1	18.6	18.6	92.1
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—
産出額	愛知県	億円	19	14	17	18	18	17.2	94.7
	全国	億円	99	88	97	105	102	98.2	103.0
	シェア	%	19.2	15.9	17.5	17.1	17.6	17.5	91.7
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—

(2) 主要産地（生産上位3市町村）

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万本)	産出額 (億円)
西尾市	17	19	11
田原市	3	4	2
碧南市	2	2	1

4 シクラメン

(1) 生産出荷に関する主要指標

出展：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2019	2020	2021	2022	2023	5か年平均	2023/2019
作付面積	愛知県	ha	16	16	16	16	16	16.0	100.0
	全国	ha	167	162	160	156	151	159.2	90.4
	シェア	%	9.6	9.9	10.0	10.3	10.6	10.1	110.4
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—
出荷量	愛知県	百万鉢	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.7	94.1
	全国	百万鉢	16	15	15	15	14	15.0	87.5
	シェア	%	10.6	11.3	11.3	10.7	11.4	11.1	107.5
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—
産出額	愛知県	億円	7	7	8	7	7	7.2	100.0
	全国	億円	69	69	70	69	69	69.2	100.0
	シェア	%	10.1	10.1	11.4	10.1	10.1	10.4	100.0
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—

(2) 主要産地（生産上位3市町村）

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万鉢)	産出額 (億円)
豊川市	5	0.3	1
田原市	2	0.2	1
安城市	1	0.1	0.8

5 観葉植物

(1) 生産出荷に関する主要指標

出展：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2019	2020	2021	2022	2023	5か年平均	2023/2019
作付面積	愛知県	ha	86	89	94	89	88	89.2	102.3
	全国	ha	271	262	265	257	254	261.8	93.7
	シェア	%	31.7	34.0	35.5	34.6	34.6	34.1	109.1
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万鉢	18	20	22	20	20	20.0	111.1
	全国	百万鉢	37	41	43	42	41	40.8	110.8
	シェア	%	50.0	49.3	50.1	48.8	48.2	49.3	96.4
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	43	68	85	81	82	71.8	190.7
	全国	億円	116	143	178	179	187	160.6	161.2
	シェア	%	37.1	47.6	47.8	45.3	43.9	44.3	118.3
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—

(2) 主要産地（生産上位3市町村）

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万鉢)	産出額 (億円)
田原市	15	3	13
岡崎市	4	1	6
西尾市	5	1	5

6 洋ラン類

(1) 生産出荷に関する主要指標

出展：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額）

		単位	2019	2020	2021	2022	2023	5か年平均	2023/2019
作付面積	愛知県	ha	42	42	40	44	42	42.0	100.0
	全国	ha	178	174	170	168	163	170.6	91.6
	シェア	%	23.7	24.2	23.5	26.2	25.5	24.6	107.6
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
出荷量	愛知県	百万鉢	3.3	3.0	3.0	3.0	2.8	3.0	100.0
	全国	百万鉢	14	12	12	12	11	12.2	78.6
	シェア	%	23.6	25.0	25.0	25.0	25.5	24.8	108.1
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—
産出額	愛知県	億円	49	43	48	50	48	47.6	98.0
	全国	億円	355	327	342	348	352	344.8	99.2
	シェア	%	13.8	13.1	14.0	14.4	13.6	13.8	98.6
	全国順位	位	1	1	1	1	1	—	—

(2) 主要産地（生産上位3市町村）

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万鉢)	産出額 (億円)
豊橋市	12	1	29
東海市	7	0.6	5
西尾市	3	0.3	4

7 花壇苗

(1) 生産出荷に関する主要指標

出展：農林水産省『花き生産出荷統計』（作付面積・出荷量）、『生産農業所得統計』（産出額：区分（花き苗類））

		単位	2019	2020	2021	2022	2023	5か年平均	2023/2019
作付面積	愛知県	ha	102	98	103	103	98	100.8	96.1
	全国	ha	1327	1301	1277	1253	1223	1276.2	92.2
	シェア	%	7.7	7.5	8.1	8.2	8.0	7.9	103.9
	全国順位	位	3	3	3	3	3	—	—
出荷量	愛知県	百万鉢	42.0	42.0	44.0	40.0	39.0	41.4	92.9
	全国	百万鉢	579	566	554	534	515	549.6	88.9
	シェア	%	7.3	7.4	7.9	7.5	7.6	7.5	104.1
	全国順位	位	2	2	2	2	2	—	—
産出額	愛知県	億円	19	20	23	20	21	20.6	110.5
	全国	億円	311	313	323	331	333	322.2	107.1
	シェア	%	6.1	6.4	7.1	6.0	6.3	6.4	103.3
	全国順位	位	3	3	3	3	3	—	—

(2) 主要産地（生産上位3市町村）

2023年産・園芸農産課調べ

市町村	作付面積 (ha)	出荷量 (百万鉢)	産出額 (億円)
一宮市	9	7	5
田原市	5	6	2
稲沢市	4	6	2

＜参考資料２＞ 愛知県花き振興計画策定検討会議設置要領

(目的)

第1 愛知県の花きの生産振興及び需要拡大を図るための、愛知県花き振興計画（以下、「振興計画」という。）を検討することを目的に、愛知県花き振興計画検討会議（以下「検討会議」という）を設置する。

(所掌事項)

第2 検討会議は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 振興計画の策定に関すること。
- (2) その他花きの生産振興及び需要拡大に関すること。

(構成員)

第3 検討会議は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 花き・緑化木生産出荷団体の代表
- (2) 花き関係業界の代表
- (3) 県関係機関の代表
- (4) その他この検討会議が必要と認めた者

(座長)

第4 検討会議に座長を置き、座長は愛知県農業水産局農政部園芸農産課長をもって充てる。

- 2 座長に事故あるときは、予め座長が指名したものが職務を代行する。

(検討会議)

第5 検討会議は、愛知県農業水産局長が招集し、座長が主宰する。

- 2 座長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 3 座長は、必要があると認めるときは、個別の案件を検討するために、専門的な知識等を有する者によるワーキンググループを招集することができる。
- 4 花の王国あいち県民運動実行委員会幹事会に検討結果を報告し、意見を聞くことができる。

(庶務)

第6 検討会議の庶務は、愛知県農業水産局農政部園芸農産課において処理する。

(雑則)

第7 この要領に定めるもののほか、検討会議の運営に必要な事項は座長が定める。

附 則

この要領は、平成27年6月3日から施行する。

この要領は、令和2年12月22日から施行する。

この要領は、令和7年9月8日から施行する。

構成員名簿

所 属	役 職	備 考
愛知県農業林水産局農政部園芸農産課	課 長	
〃	担当課長	野菜・果樹・花き
〃 食育消費流通課	担当課長	市場・食育・食品表示
〃 農業振興課	担当課長	農業共済・農村対策
〃 農業経営課	担当課長	普及・環境
〃	室 長	農業イノベーション推進室
〃 農業総合試験場普及戦略部	室 長	技術推進室
〃 農業総合試験場園芸研究部	室 長	花き研究室
愛知県農林基盤局林務部森林保全課	担当課長	団体指導・緑化
愛知県都市・交通局都市基盤部公園緑地課	担当課長	企画・景観
愛知県経済農業協同組合連合会園芸部	部 長	
愛知県花き温室園芸組合連合会	事務局長	
愛知県緑化木生産者団体協議会	事務局長	
愛知名港花き卸売事業協同組合	事務局長	
愛知豊明花き流通協同組合	顧 問	
名古屋生花小売商業協同組合	副理事長	
愛知園芸商組合	理事長	